

I 期 (一般)

受験番号	<input type="text"/>	氏名	<input type="text"/>
	<input type="text"/>		

平成 30 年度

武蔵野大学大学院 人間社会研究科 人間学専攻 臨床心理学コース 入学試験問題 (9月10日)  
[ 心理学 ]

I 以下の1~5のひらがなを漢字で記せ。解答は、解答欄に記せ。

- 1 こうにんしんりし    2 いりょうかんさつほう    3 きょうはくしんけいしょう  
4 ちょっかんてきしこう    5 ゆういすいじゅん

II 以下の1~5の読み方をひらがなで記せ。解答は、解答欄に記せ。

- 1 心神耗弱    2 阿闍世    3 閾値    4 隠喩    5 信憑性

III 心理学領域で使用される1~5の略語の正式名称を英語で記せ。解答は、解答欄に記せ。

- 1 PTSD    2 CBT    3 IQ    4 WAIS    5 DSM

IV 以下に示す人名とキーワードの組み合わせの中で適当でないものを1つ選び、解答欄に記号で記せ。  
適当でない組み合わせがない場合は、解答欄に e と記せ。

- 1 a Ebbinghaus H — 無意味綴                      b Kohut H — 自我心理学  
c Fairbairn WRD — 精神分析的対象関係論    d Mesmer FA — 催眠
- 2 a Erickson MH — 催眠療法                      b James W — 機能主義心理学  
c Federn P — モルティドー                      d Menninger KA — 治療的退行
- 3 a Erikson EH — 自我同一性                      b 島崎敏樹 — 現象学  
c Ferenczi S — 全能感                              d 森田正馬 — 神経質
- 4 a Ellis HH — 性倒錯                              b 下田光造 — 森田療法  
c Fraiberg S — 赤ちゃん部屋のおばけ    d Moreno JL — ソシオメトリー

- 5 a Ellenberger HF — 無意識の発見      b Janet P — 心理自動症  
c Frankl VE — 行動療法                  d Jung CG — 元型

V 以下の1～5の文章にもっとも関連が深い人物を選べ。解答は、解答欄に記号で記せ。

- 1 乳幼児の行動や母子関係を経時的に観察・研究することで導いた分離—個体化理論によれば、乳幼児は自閉期、共生期、分離—個体化期（実践期と再接近期）を過ぎて個体化を完成する。  
a Mahler MS      b Winnicott DW      c Freud A      d Klein M      e 正解なし
- 2 無意識の there & then の内的対象関係ではなく、現実の here & now の対人関係を重視し、治療者は患者との関係に参加しながら観察する（a participant observer）という態度をとることが重要である。  
a Kernberg OF      b Kohut H      c Balint M      d Sullivan HS      e 正解なし
- 3 親に虐待された子供は、また虐待されるとわかっていても親許に帰っていく。彼らは快楽を求めているのではなく、親という対象を求めているのであり、リビドーは対象を希求する。  
a Bowlby J      b Mahler MS      c Fairbairn WRD      d Winnicott DW      e 正解なし
- 4 神経症より病態の重い患者の治療をしていると、彼らは幼児的な性欲・攻撃欲の満足ではなく、乳幼児期に親から得られなかった a primary object love を求めてくる。対象関係は乳児が生まれたときから存在する。  
a Balint M      b Klein M      c Fairbairn WRD      d Kernberg OF      e 正解なし
- 5 自己愛は病的なものばかりではなく、正常なものもあり、しかも自己愛はそれ自身の発達ラインを持つ。自己愛が発達すると、共感、創造性、ユーモア、知恵などの人間にとって重要な精神機能が発達していく。  
a Kernberg OF      b Kohut H      c Balint M      d Sullivan HS      e 正解なし

VI 以下の文章を読み、1～5の問いに答えよ。解答は、解答欄に a～e の記号で記せ。

クライアントは、行動や情動の問題だけでなく、考え方や価値観、イメージなど、さまざまな認知的な問題を抱えている。行動や情動の問題に加え、認知的な問題をも治療の標的とし、治療アプローチとしてこれまで実証的にその効果が確認されている行動的技法と.....<sub>1</sub>的技法を効果的に組み合わせて用いることによって問題の改善を図ろうとする治療アプローチを総称して、.....<sub>2</sub>療法という。行動理論はその発展のなかで、.....<sub>3</sub>だけではなく、認知の持つ機能を理論的に明らかにするようになった。すなわち、認知的過程に行動理論のアナロジーを適用するところから出発し、自己効力感の理論、社会的認知理論、学習性無力感理論、原因帰属理論、ストレスへの認知的対処（.....<sub>4</sub>）理論、統合失調症の認知障害<sub>5</sub>モデル等への展開をみた。また、人が行動をいかにコントロールしているかという制御メカニズムを明らかにするようになった。一方、精神力動的な心理療法も行動論的アプローチを採用するようになった。

（心理学辞典（有斐閣）の「認知行動療法」の項より一部抜粋・改変）

- 1 下線部 1 に入るもっとも適切な言葉はどれか。  
a 情動    b 想像    c 認知    d 実証    e 正解なし
- 2 下線部 2 に入るもっとも適切な言葉はどれか。  
a 来談者中心    b 認知行動    c 精神分析    d 精神分析的な精神    e 正解なし
- 3 下線部 3 に入るもっとも適切な文はどれか。  
a 外部から観察することのできる行動    b 内部から観想することのできる思索  
c 外部から観察することのできない思索    d 内部から観想することのできない行動    e 正解なし
- 4 下線部 4 に入るもっとも適切な言葉はどれか。  
a フラストレーション    b リラクゼーション    c レジリエンス    d コーピング    e 正解なし
- 5 下線部 5 の「統合失調症の認知障害」と関係ないものはどれか。  
a 記憶    b 注意    c 問題解決    d 処理速度    e 正解なし

VII 以下の 1 と 2 につき、それぞれで挙げた 3 つの錯視図形の中から 1 つ選んで描け。どの錯視図形を選んだかも明記すること。解答は、解答欄に記せ。

- 1 ツェルナー錯視、ヘリング錯視、ヴント錯視      2 ポンゾ錯視、ジャストロー錯視、デルブッフ錯視

VIII 以下の問いに答えよ。解答は、解答欄に記せ。

- 1 大学院の心理臨床センターに相談に訪れる任意のクライアントを 1 人想定し、そのクライアントの生活歴および現病歴を簡潔に述べよ。
- 2 1 で想定したクライアントに s-HTP を施行した場合、どのような描画をするか想像し、その描画を描け。
- 3 2 で描いた描画を臨床心理学的に解釈せよ。

IX 交絡因子の扱いが問題になるが、他には統計学的に問題のない、任意の研究計画を 1 つ想定し、簡潔に述べよ。臨床心理学コースの大学院生に実現可能な内容にすること。解答は、解答欄に記せ。